

ドン・キホーテな世界に迷い込んだデュルシネア・ラングフェルダー
待望の最新作、ワールドプレミア！

Spiral Performing Arts Series Vol.3

デュルシネア・ラングフェルダー & Co.

「Dulcinea's Lament デュルシネアの嘆き」

2008年9月22日(月)～9月23日(火・祝) スパイラルホール(スパイラル 3F)

Spiral Press Release
July 2008

spiral®

スパイラル／株式会社ワコールアートセンターでは、9月22日(月)～23日(火・祝)にかけて、Spiral Performing Arts Series Vol.3 デュルシネア・ラングフェルダー & Co. 「デュルシネアの嘆き」をスパイラルホール(スパイラル3F)で世界初公演します。

ダンスあり、歌あり、演技あり、笑あり。

前作「ヴィクトリア」で大きな反響を呼んだデュルシネア・ラングフェルダー、待望の最新作！

過去2回、代表作「ヴィクトリア」の公演で日本を沸かせたデュルシネア・ラングフェルダー。彼女は、シルク・ドゥ・ソレイユやラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスなど数多くの才能を生み出したカナダ・ケベック州の文化シーンを代表する重要なアーティストの1人です。

待望の最新作は「ドン・キホーテ」に登場する架空の女性、デュルシネア姫をテーマにしたもの。デュルシネアは、自身と同じ名前を持つこの「不在のヒロイン」の目線を通じて、閉ざされた歴史の扉を開きます。

彼女が語るもう一つの世界とは？歴史とは？

スパイラルが世界で初めてのお披露目の場となる「デュルシネアの嘆き」。ダンスあり、歌あり、演技あり、笑いありのこの公演にご期待ください。



開催概要

Spiral Performing Arts Series Vol.3

デュルシネア・ラングフェルダー & Co. 「Dulcinea's Lament デュルシネアの嘆き」

会場：スパイラルホール（スパイラル 3F）

会期：2008年9月22日(月) 19:00 開演（18:30 開場）
9月23日(火・祝) 15:00 開演（14:30 開場）

テキスト：デュルシネア・ラングフェルダー

演出：アリス・ロンファー

出演：デュルシネア・ラングフェルダー

テクニカルスタッフ兼出演：フランシス・ラエ、エリック・ラピエール、
ダニス・ラヴァスール、ヴァンサン・サンテス

テクニカルスタッフ：エリック・ジングラ

音楽演出：フィリップ・ノワロー、ダニス・ラヴァスール

美術：アナ・カペルト

映像：イヴ・ラベル

人形遣い：ヴァンサン・サンテス

照明デザイン：エリック・ジングラ

ケベック州政府在日事務所設立 35 周年記念
ケベック市政 400 周年記念

主催：株式会社ワコールアートセンター
青山劇場・青山円形劇場（こどもの城）

後援：ケベック州政府在日事務所

協賛：QFRONT、東急ステイサービス株式会社

企画制作：スパイラル、
青山劇場・青山円形劇場（こどもの城）

この件に関するお問い合わせ先

広報担当：加藤、清水

スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848

E-mail press@spiral.co.jp

◆Spiral Performing Arts Series とは

日本を含む世界各国の良質なコンテンポラリー・ダンス、パフォーマンス作品を紹介し、ダンスファンの拡大、若手ダンサーの育成、並びに日本のコンテンポラリー・ダンス界の発展に寄与するために開催するパフォーマンス・アーツのシリーズです。

「Dulcinea's Lament デュルシネアの嘆き」 作品ノート



私が最初に「ドン・キホーテ」の本を手にとったのは、ドン・キホーテの理想の女性、私と同じ名前を持つデュルシネア姫に興味を覚えたからでした。私は、時代を超えてなお輝きを失わない本作品の魅力に強く影響をうけました。私の解釈が正しければ、セルバンテスこそ、私の芸術的アプローチの要である社会風刺という概念を発明した人だといえます。

「デュルシネアの嘆き」の製作にあたって、数年にわたって「ドン・キホーテ」の研究を重ねていくうちに、デュルシネア姫が歴史の中で戦略的な位置を占めていることがだんだんとわかってきました。彼女は、古い思想から近代思想へのターニングポイントとなる人物です。彼女がもし話すことができたなら、人間行動の欠点を指摘する強力な代弁者になっていたでしょう。しかし結果的には、彼女が描かれた時代、女性は火あぶりにされるしかなく、超大国であったスペインでは、ユダヤ人とアラブ人が追放の憂き目にあいました。また、1492 年にはアメリカが「発見」されています。

この作品を通じて、私は鏡の中の異なる視点に対して心を開きたいと考えました。わずかに残された詩やイメージからしかその足跡をたどることができない、歴史からほとんど消えてしまいそうな人物。また、今日主流となっているものとは別の宗教観を持っていた人物。もしかしたら、社会を違った形で形成していたかもしれない彼らの視点に。「宗教」…、そう、私は再びこの難しい領域に踏み込もうとしているのです。

デュルシネア・ラングフェルダー Dulcinea Langfelder

ダンサー？ 確かに。コメディアン？ もちろん。歌手？ 見事に。マイム？ これも洗練されている。

パフォーマンス・アーティスト？ そうとも言える。

結局これらはすべて、デリケートでほろ苦いヒューマン・シアターのことを意味している。

異なるものを足し合わせた結果、その合計以上のものが生まれるのである。

インタラクティブな技術により、これらすべてを融合させ、シンプルに詩的で不思議な不合理を作り出した。

(マックス・ワイマン、ザ・プロビンス誌)

Profile



ニューヨーク出身。幼少期からダンスに親しむ。

渡仏後、パントマイム界の巨匠、エティエンヌ・デュクルーにマイムを学び、演劇界の権威であるユージニオ・バルバと、ピーター・ブルック劇団のメンバーでもあった俳優のヨシ・オイダに演劇を学ぶ。

1978 年モントリオールに移り住み、自らのカンパニーを 1985 年に設立、多用なジャンルを融合した作品を創作し世界各地で上演。

日本でも好評を博した「ヴィクトリア (Victoria)」(1999 年)は 12 カ国以上の国で、6 カ国語で上演した代表作である。舞台芸術のあらゆる表現手法を織り合わせたユニークな作品と、人生の暗く重い部分に対し陽気さを探し求めた点が賞賛を受けている。

2007 年にはエジンバラ演劇祭で、Scotland on Sunday 紙／Luvvie 賞(ダンス・フィジカルシアター部門 ベストパフォーマー賞)を受賞した。

主な作品

- ・「悪循環」(1985 年)
- ・「隣の部屋の女性」(1989 年)
- ・「うそ！大丈夫？」(1991 年)
- ・「スーツケースを持った女性の肖像」(1994 年)
- ・「ヴィクトリア」(1999 年)

主な受賞歴

- ・1990 年 モントリオールの日刊紙 La Presse／Personnality of the Year ダンス部門
- ・2007 年 Scotland on Sunday 紙／Luvvie 賞(ダンス・フィジカルシアター部門のベストパフォーマー賞)

開催概要

Spiral Performing Arts Series Vol.3

デュルシネア・ラングフェルダー & Co. 「Dulcinea's Lament デュルシネアの嘆き」

会 場：スパイラルホール（スパイラル 3F）
会 期：2008 年 9 月 22 日（月） 19:00 開演（18:30 開場）
9 月 23 日（火・祝） 15:00 開演（14:30 開場）

テキスト：デュルシネア・ラングフェルダー
演 出：アリス・ロンファー
出 演：デュルシネア・ラングフェルダー
テクニカルスタッフ兼出演：フランシス・ラエ、エリック・ラピエール、
ダニス・ラヴァスール、ヴァンサン・サンテス
テクニカルスタッフ：エリック・ジングラ
音楽演出：フィリップ・ノワロー、ダニス・ラヴァスール
美 術：アナ・カペルト
映 像：イヴ・ラベル
人形遣い：ヴァンサン・サンテス
照明デザイン：エリック・ジングラ

ケベック州政府在日事務所設立 35 周年記念
ケベック市政 400 周年記念

主 催：株式会社ワコールアートセンター
青山劇場・青山円形劇場（こどもの城）
後 援：ケベック州政府在日事務所
協 賛：QFRONT、東急ステイサービス株式会社
企画制作：スパイラル
青山劇場・青山円形劇場（こどもの城）

チケット情報

料金：前売 4,000 円／当日 4,300 円 （全席自由）

発売開始：8 月 1 日（金）

スパイラル 03-3498-1171（スパイラル代表）
スパイラルオンラインストア <http://store.spiral.co.jp>
チケットぴあ 0570-02-9999 [P コード 388-615]

デュルシネア・ラングフェルダー & Co. 「ヴィクトリア」公演

◆石川公演

日 時：9 月 26 日（金）
会 場：金沢 21 世紀美術館 シアター21

◆島根公演

日 時：9 月 28 日（日）
会 場：島根県民会館 中ホール

◆高知公演

日 時：10 月 2 日（木）
会 場：高知県立美術館 ホール

◆愛知公演

日 時：10 月 4 日（土）
会 場：長久手町文化の家 森のホール



「ヴィクトリア」より

関連イベント

「アート伝える アートライター養成講座」 Vol.3 デュルシネア・ラングフェルダー & Co.公演「デュルシネアの嘆き」編 開催

2008 年 4 月からスタートした「アート伝える アートライター養成講座」では、スパイラルで開催されるイベントを中心に、コンテンポラリーアート、パフォーマンス・アーツ、デザインなどさまざまなジャンルのアートを題材に、レクチャー、実際の取材、講評を通じて、第一線で活躍する批評家、ライターからライティングを実践的に学ぶ機会を提供します。

第 3 回目は、Spiral Performing Arts Series vol.3 デュルシネア・ラングフェルダー & Co.「デュルシネアの嘆き」を題材に告知、レビュー、インタビューなど、さまざまな記事の書き方を学びます。



Vol.1「SICF」レクチャー風景

講座概要

テーマ: Spiral Performing Arts Series Vol.3
デュルシネア・ラングフェルダー & Co.
「デュルシネアの嘆き」

日 時: 9 月 13 日(土)14:00~17:00 [レクチャー]
9 月 21 日(日)14:00~17:00 [取材]
9 月 27 日(土)14:00~17:00 [講評]

鑑賞日※: 9 月 22 日(月)19:00~
9 月 23 日(火・祝)15:00~

場 所: スパイラル 6F

講 師: 富澤ひろ江(エディター、ダンス・バレエ舞台評論家)
藤田千彩(アートライター)

定 員: 10 名

※公演鑑賞は、9 月 22 日(月)19:30/9 月 23 日(火・祝)14:00 の
2 回のうち、お好きな日程を選択いただけます。

申込方法

料 金: 15,750 円(税込)【公演チケット代金含む】
申込方法: スパイラルウェブ内
<http://www.spiral.co.jp/awp/>
(アートライター養成講座特設HP)にて受付中。
申込締切: 9 月 11 日(木)

講師プロフィール

▼富澤ひろ江(エディター、ダンス・バレエ舞台評)

國學院大學卒業。私立女子高校で教鞭を取った後、雑誌の編集者としてぴあ株式会社に転職。
週刊・MOOK・TV誌・ブライダル誌などを経、日本ダンス評論賞を受賞したのを機にフリーランスへ。
現在、TV局番組宣伝、エンターテインメント媒体の企画・編集に携わりつつ、バレエ公演パンフ、
ダンサーインタビュー、『ダンツァ』へ舞台評を寄稿中。

▼藤田千彩(アートライター)

1974 年岡山県生まれ。
大学卒業後、某通信会社に勤務。美学校トンチキアートクラス修了。
現在、『ぴあ』『週刊SPA!』『BT 美術手帖』『PEELER』などでアートに関する文章を執筆中。